

## 安全への提言



### 企画委員会からの提案 —学会の社会貢献に向けて—

わか くら まさ ひで  
若 倉 正 英†

年明け早々に5名の方がなくなり、12名が負傷するという爆発事故が報じられた。報道によれば、設備の解体作業中の爆発で、この作業では安全を確保するための手順や指標を盛り込んだ規定がなかったとされている。組織としての安全認識の希薄さを感じた方も多かったのではないだろうか。また、会社に不満を持った従業員が製造工程で、製品の冷凍食品に毒物を混入させ、全国で広範な健康被害が発生した事件も起きている。事故原因が技術的な問題だけではなく、経営層の安全理念や人の悪意など、背景となる要因が複雑になり、社会の安全・安心に学会員の広い知識や経験を生かすことが求められ、かつ、学会活動の幅を広げることが必須であろう。

2005年田村昌三会長、小川輝繁企画委員長のもと、企画委員会は大きく衣替えした。学会が安全を通してどのように社会に貢献できるかを考えることを主要なミッションとすることとなったのである。この目的に向け、産（石油や石油化学などのプロセス業界、エンジニアリング業界、シンクタンク）、学（大学、研究機関）の経験豊かな方々と、若手学会員にも委員として参集いただいた。新企画委員会がまず取り組んだのは、人間工学会をはじめとする他学会との交流、安全のサポートを行うための安全専門家の登録、そして、安全工学の体系化に向けた活動であった。安全工学の体系化では野口和彦理事を中心に、安全の概念（安全工学から見た安全）、安全工学のフィールド、安全の構成要素などの討議をすすめた。

2006年には経済産業省等行政の方々にも参加いた

だき、トップマネジメント講習会を開始した。残念ながら、この企画は十分な成果をあげられなかったが、2010～2012年、小野峰雄会長のご尽力で、石油化学業界の多くの社長、会長さんにご参加いただき、社長懇談会として結実した。社長懇談会の成果は「社長の役割の提言」としてまとめられた。その活動は安全統括役員、現場の責任者である工場長との意見交換会へと拡がっている。同年、若手の企画委員の提案で次世代研究会（熊崎美枝子委員長）が立ち上げられ、新しい発想で様々な活動をすすめている。

2007年、技術者教育に関する提案を目的に教育安全部会（新井充委員長）が活動を始め、大学や産業界の教育カリキュラムなどについての調査、検討をおこなった。教育は安全の分野できわめて重要であり、今後さらに活動を活性化させる必要がある。

そして、2014年には会員ならびに社会への貢献と発信を目的に、新たな取り組みを計画している。まずは、アドバイザーボードの改組である。新アドバイザーボードは学会の活動への助言をいただくだけでなく、学会活動の幅を広げ、社会への貢献をより活性化することを目的としている。ボードメンバーには、研究の活用の視点から維持会員、学術の視点から学会とは立ち位置の異なる研究者、学会連携の発展を目指して外部学会、そして運営の視点から広報関係者などを想定している。可能な限り広い世代にご参加いただくことが望ましいと考えている。また、学会の資源をより広く活用いただくために、活動の見える化やマスコミとの連携強化も検討することとなった。

† 特定非営利活動法人 災害情報センター：〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1 早稲田大学55号館S0804